

## 目 次

1	発刊にあたって .....	1
2	入賞者一覧 .....	2
3	作文コンクール（要項・応募状況・審査内容）.....	3
4	受賞作文 .....	4
	富山県知事賞 黒部市立高志野中学校 米田 爽子 ...	4
	北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞 黒部市立宇奈月中学校 長谷川茄鈴 ...	5
	富山県教育委員会教育長賞 魚津市立西部中学校 山形 桜水 ...	6
	富山県市長会会長賞 黒部市立高志野中学校 大上戸理奈 ...	7
	富山県北方領土問題教育者会議会長賞 射水市立新湊南部中学校 北野 晶子 ...	8
	入選 黒部市立鷹施中学校 森岡 美帆 ...	10
	入選 黒部市立鷹施中学校 神保 彩菜 ...	11
	入選 黒部市立高志野中学校 大田 智生 ...	12
	入選 黒部市立高志野中学校 大野 櫻子 ...	13
	入選 黒部市立高志野中学校 田中 優香 ...	14
	入選 黒部市立高志野中学校 久藏 仁美 ...	15
	入選 魚津市立西部中学校 上嶋 拓 ...	16

（巻末）参考資料

## 発刊にあたって

私たち富山県民にとって北方領土は先人が開拓した大切な領土であり、本県に六百人以上おいでになる元島民の方々にとってはかけがえない故郷です。しかし、戦後六十年以上が経過した今日もロシアによる不法占拠が続けられています。日本の領土でありながら日本人が自由に往来できない地域があるという現実を正しく理解し、関心を呼び起こすことを目的として、中学生を対象とした作文コンクールを実施いたしました。

この作文コンクールは、「北方領土返還要求運動富山県民会議」と「富山県北方領土問題教育者会議」が協力して実施したもので、今回で二回目となります。

県下全域の中学生から多数の応募をいただき、そのうち十二編の入賞作品を掲載いたしました。

本誌に掲載しております作文は、いずれも、大変すばらしい作品で、北方領土問題に正面から向き合って考えたこと、問題の解決には幅広い国民各層のねばり強い取組みが必要なこと、そして北方四島在住のロシア人との相互理解が必要であることなどが訴えられています。中には、一般にあまり知

られていないような戦中戦後の外交交渉の内容や、ロシア側の主張も学習したことが伺われるものもあり、その考察の深さに驚きを隠せませんでした。また、残念ながらあと一步で入賞を逃され、本誌に掲載できなかった作品の中にも、きりと光るすばらしい作品が数多くありました。

これらの多くの作品から、北方領土問題解決の希望を担う若い次世代の皆さんが育っていることがうかがわれ、喜びにたえません。また、こうした学習を通し、生徒が国際的な場でも活躍できる力を身に付けてくれるものと期待しております。私も県民会議と教育者会議では、引き続き、小中学校における北方領土教育の充実に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、この作文コンクールにご協力いただきました多くの皆様方に改めて厚く御礼申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成二十一年三月

北方領土返還要求運動富山県民会議

会長 四方 正治

富山県北方領土問題教育者会議

会長 加藤 昌弘

## 北方領土問題で学んだこと

黒部市立高志野中学校 三年 米田 爽子

私が始めて「北方領土問題」を知ったのは小学六年生の時でした。地元の年配の方たちが元島民で戦後間もなく島を追われた苦労や子供の頃の楽しかった島での生活の話を聞きました。小さいながらもロシアを憎み、早く島が返還され再度島に戻るようになってあげたいと思いました。中学三年生になって再び学校の課題でこの問題に触れました。この三年間、私は他人事だと思っていたのですが、私の先祖が北前船に富山の米を積んで北海道に運ぶ商売をしていたことがわかりました。越中人が苦労して開拓した根室・羅臼・利尻・色丹島、齒舞諸島で獲れた魚や良質の昆布を米と交換して、黒部にもちかえていたそうです。祖母は、子供の頃の記憶に農家の人たちが、ニシンの頭を加工した肥料を買いにこられたことやたくさんの北海道の特産物に囲まれて食生活がとても豊かだったそうです。

富山県は、北前船による交易や昆布漁で北海道とのつながりが強く、明治の頃から北海道開拓民として多数の人が

渡り、今でも北方領土近くの根室などに出身者が多いそうです。

私もこの根室市と姉妹都市提携を結んでいる黒部市民の一人として、北方領土の歴史を知って返還運動を理解して関心をもたなければと思いました。

インターネットで検索すると北方領土に関してのホームページがたくさんあり、多くの人がこの島に対して興味があることがわかりました。また、江戸から明治時代にかけて日本人が苦労して開拓して得た日本固有の領土を第二次世界大戦末期の八月八日、わずか一週間のソ連軍の参戦と戦後も続いた侵攻で、今だに占拠状態にあると知ってがく然としました。不法占拠によって全ての島民が家や墓、生活を捨てて島を追われ出されました。小さい子から老人、なかには私の先祖がお世話になった人が含まれていたかと思うと悔しくなり、一層すぐにでも返還して欲しいと思うようになりました。

しかし皮肉な事に社会の授業でロシア側の立場、返す必要はないという弁論をしました。不利だと思っていましたが、ロシアが戦争でこの土地を得たこと、その戦争は日本の侵略行為が原因だったことを理由に討論で勝ってしまいました。

不法でもロシア領土として六十年以上たち、二万人ほどのロシア人が住む人達の立場を考えると、現住民の生活を脅かしてはいけないと思います。

北方領土の返還を求めるとは、まだまだ時間がかかると思いますが、せめて元島民の人たちがもう一度里帰りできる様に政府の人たちに努力してほしいです。

北方領土問題は、広島原爆ドームと同様に二度と戦争、大きな過ちをしてはいけないというシンボルとして真剣に考え、風化させてはいけないと強く思いました。

## ノサツプ岬の先の日本——北方領土

黒部市立宇奈月中学校 二年 長谷川茄鈴

北方領土——と聞いて、浮かぶことといえば、齒舞、国後、色丹、択捉の四島の名前。そして、ロシア領とされているということ。今年の八月に、北海道を訪れるまでは、北方領土について知っていることといえば、社会の時間に勉強したこれらのことぐらいでした。今夏、「富山県少年少女北海道派遣団」の一員となり、北方領土返還について

学ぶ機会が与えられました。日本地図にのっているのに、ロシアの人が住んで、ロシアの土地のように扱われているという矛盾がなぜ起こっているのかという疑問を解決したいと思い、北海道に行きました。

北海道では、北方領土のことはもちろん、ロシアのこと、ロシアとの間の北方領土問題も学ぶことができました。中でも一番印象深かったのが、ノサツプ岬に行った時のことです。そこから北方領土が見えるということはそれまで知りませんでした。わずか三・七km。すぐそこにある自分たちの土地なのに安易に立ち入ることができない。近づくことすらできない。こんなにも近い距離なのに見えない壁があることに悲しい気持ちになりました。

また、ロシアに占領されてからも何十年と過ぎてしまいい、住民であった日本人の人々は高齢で、亡くなられた方も多いということを知りました。一刻も早く日本領土として返還してもらいたいという気持ちの反面、これだけの時が経てばロシアの人々にとってもそこは故郷になってしまったのではないか、ということに気づきました。「還してほしい」という強い願いの一方で、ロシアの人々の長年住み慣れた土地を奪うのは酷だという気持ちもあり、複雑な思いで胸が苦しくなりました。

しかし、高齢になられた元島民のみなさんの心痛を察すると、同じ日本人として、元々は日本の領土であるのだから還してほしいと強く思います。なぜ、ロシアの人々が北方領土に足を踏み入れたのでしょうか。ロシアだけが一方的に悪いのでしょうか。古い記憶となりつつありますが、日本にも理由があるのではないのでしょうか。日本は自らを省み、その上でロシアと歩み寄り、しっかりと話し合い、平和的な解決策を探していかなければいけないと思います。現在行われているビザなし交流などのような交流活動を盛んに行い、よい関係を築きながら、今の住民のみなさんにも納得してもらえる策を見つけないけません。そして、少しでも早く四島が日本の土地として還ってきて、島民の人々が故郷に帰ることができればいいと思います。そのため私ができること——それは、署名運動への参加や、ポスターや標語などで返還活動を活発にすることです。北方領土問題を風化させないよう、返還活動を周りの人に広めていくことが大切だと思います。霧のノサップ岬の先にあつた四島。いつか私も「日本の北方領土」を訪れたいです。

## 北方領土について

魚津市立西部中学校 二年 山形 桜水

北方領土と言うと、「私には関係ない。」と思うかもしれませんが、でも、北方領土は日本の領土であり、日本にとっても、私たちにとつても、大切な領土ではないでしょうか。

日本が北方の島々を知つたのは、今からおよそ三百九十年以上も昔のことといわれています。それから、何回かの条約が定められ、国境線の変化がありました。北方領土と言われる、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は、いずれも、日本の領土内に存在するものでした。ですから、歴史的にも、条約的にみても、日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終了直後、ソ連軍によつて、不法に占拠され、現在もロシアの不法占拠下にあるのです。

考えてみてください。北海道の根室半島から、一番近い、歯舞群島の貝殻島までは、三・七キロメートルしか離れていません。晴れた日には、すぐ近くに見えます。そこに、遠う国の人々が住んでいるなんて、想像できますか。

北方領土には、終戦時、三千百二十四世帯一万七千二百

九十一人の日本人が住んでいました。島民の約半数は、ソ連軍の厳しい監視の目をくぐって、故郷の島々を脱出しましたが、それ以外の島民は、そのまま抑留<sup>とくりゅう</sup>され、樺太などで、非常に苦しい生活を送り、昭和二十二年から、二十四年にかけて、引き揚げさせられました。現在では、日本の領土でありながら、日本人は一人も住んでいません。

私たちが、お盆にお墓参りをするように、北方領土の元居住者は、日本人でありながら先祖のお墓参りをするのは、簡単ではないのです。

北方領土について、調べるにつれ、日本人として、日本の実情や、ロシアとの友好関係の大切さを知り、北方領土問題の解決は世界平和に通じるのではないかと思えます。

今、北方領土の現状は、一万六千八百人のロシア人が住んでいます。ソ連邦崩壊後、大きな社会困難に見舞われ、さらに一九九四年の北海道東方沖地震で、大きな被害を受け経済状況は悪化しました。燃料不足により、停電や道路がほとんど舗装されていないなど生活整備は立ち遅れています。

日本のためにも、ロシアのためにも、北方領土問題の解決は有意義だと、私は思います。

また、魚を食べる日本人にとっても、北方領土の経済水域はなくてはならないものではないでしょうか。

今一度、北方領問題に対して、日本人一人一人が正しい理解と、認識を深めて、近い将来、日本に返還されるように切に願います。

## 今、日本がしなければいけないこと

黒部市立高志野中学校 三年 大上戸理奈

北方領土と呼ばれている択捉・国後・色丹・歯舞は、一体ロシアと日本どちらのものなのでしょうか。

私が総合的な学習として北方領土について詳しく知ったのは二学期の初めのことでした。そこで初めて引揚者数が一番多いのは、私たちが住んでいる富山県だということを知ったのです。夏休みの課題として、北方領土について自分でテーマを決め、レポートを作ることになりました。そこで私は、世界の国々の地図では、北方領土の権利をどのように表記しているのかを調べました。その結果、ほとんどの国が、ロシアの領土だと記してあったのです。私はこのことから、日本はこれからも返還運動を続けていく予定だが、北方領土が返還される日は本当に来るのだろうか、

と不安に思いました。

十一月十三日、旧島民の方のお話を聞ける機会がありました。私は一度、旧島民の方に島での暮らしや、島に対する思いを聞いてみたかったので、とても良い経験となりました。私たちは、生地出身で歯舞諸島に住んでおられた三人の方にお話を伺いました。島は、魚も米も豊富で、とてもにぎやかだったので、当時の生地よりも良い暮らしだったそうです。私は、島は貧しく、あまり良い暮らしではなかったのだと思っていたので、ビックリしました。三方と島について話している時、とても笑顔で懐かしそうに話しておられたので、楽しく、幸せな暮らしだったことが伝わってきました。また、みなさんが口を揃えて言ったことは、『北方領土が返還されたら、是非帰りたい。』ということでした。なぜなら、そこで育ったのは自分たちであり、辛い思いもして大変だったけど、そこが自分たちのふるさとだから、だそうです。島に対する強い気持ち伝わり、込み上げてくるものがありました。

現在、北方領土がロシアに占領されていることには、いくつか理由があります。まず、ソ連が攻め込んで来たのは戦争中であり、日本も、戦争中に韓国や中国をはじめとするアジアの国々にひどいことをしたのも事実です。それに、

ロシアは戦勝国で、日本は戦敗国だから、戦争に勝った利益として島をもらったと、ロシアは主張しています。現在、島にはロシア人が住んでおり、ロシアも北方領土の大きな水域を抱えているので、簡単に返してくれるとは思いません。だからこそ、少しずつロシアと話し合っていく事が大切なのです。旧島民の方だけではなく、日本国民全員が返してほしいと願うまで実現しません。一日でも早く返還されるように、この富山県が中心となって呼びかけていく必要があると思います。日本政府も現代の人たちに、島を返してほしいと思わせるような努力をしなければならぬと思います。そうすればきっと北方領土が返ってくると、私は信じています。

## 明るい未来への願い

射水市立新湊南部中学校 二年 北野 晶子

ある日のニュース。ふと見ると、「教科書に北方領土のことを載せてほしい。」と叫んでいる人がいました。私は北方領土とあまり関わりがなく、なんとなく知っているだ

けだったので、どうしてそんなことを叫んでいるのだろうと不思議に思いました。

北方領土問題を叫んでいる人にも叫ぶ理由があるのだろうと思つた私は、思い切つて母に聞くことにしました。すると母は、真剣な顔で私に、こう話してくれました。「北方領土は昔、日本固有の領地だったんだけど、ロシアが北方領土の住民を追い出して不当に占拠していて、未だに返してくれてないんだよ。北方領土は私たちの父祖が汗水流して築いてくれた土地だから、こうして北方領土問題が叫ばれているのよ。」母の言葉に興味を持った私は、インターネットを使って、北方領土の問題や歴史について調べることにしました。

北方領土のことは、なんとなくしか知らなかつたけれど、詳しく調べれば調べるほど、驚きの気持ちと同時に怒りが込み上げてきました。インターネットで調べた中に、三十年間住んでいた家を、ロシア兵に強制的に追い出され、家も土地も財産もすべて奪われ、リュック一つで根室に移り住んできた家族の話や、公共の建物の学校や寺など、ロシア兵に荒らされ、墓を掘り返されて、誰の物か分からない骨がそこらじゅうに散らばっている話もありました。また、ロシア兵がいきなり、民家に入ってきた時、父親が娘を押

し入れに隠し、それ以後男の子の格好をして過ごしていた姉妹の話もありました。もし自分が住んでいる所を追い出されたら、もし自分が男の子の格好をして過ごすことになつたらと考えると、ゾツとするような話ばかりでした。

また、北方領土は三宅島より本土に近いのです。面積も千葉県や福岡県と同じくらいなのです。このことを知つた私は、北方領土が日本の領地ではないことは、おかしいことだと思いました。

悲惨な現実を目の当たりにした今、私たち若者は北方領土を取り戻すことが使命だと思えます。インターネットに載っていた写真の中で寂しそうに泣いていた、昔の北方領土の住人の人々に一人でも多く、懐かしいふるさとの土地を踏ませてあげたいです。未だに墓参りをすることも許されていない遺族の人々もいるのです。問題を解決するための初めの一步は、私たち日本人一人一人が北方領土問題をまず解決することです。また、ロシアの人たちは、自分たちの国がやつた、卑劣な行為に気付くことが大切なのです。一日でも早く、ロシアと日本の間に、真の友好関係が築かれることが私たちの願いです。

## 北方領土問題を知って

黒部市立鷹施中学校 三年 森岡 美帆

私は、北方領土問題について、初めて深く考えました。なぜそこまで返還にこだわるのか、どうしてロシアに占領されてしまったのかなど疑問がたくさんありました。

まず、最初に考えたのは、どうして日本が返還にこだわるのかということです。そこで私は、もし自分の住んでいる黒部市がいきなり他の国に占領されたと想像してみました。自分の小さい頃から育ったところにもう二度と入ることができない、住むことができないと思うと、どんどん自然と忘れていきそうで怖いのです。だからきつと島から追い出された人たちはつらいだろうなと思います。そういう人たちのために国も取り組んでいるのかなと思いました。それと北方領土がなくなれば、日本の領土が小さくなり、資源のとれる量も減ってしまうので北方領土問題に対して国は真剣に取り組んでいるのだとも思いました。

次に、どうしてこのような問題が起きてしまったのかという疑問が浮かびました。先生から話を聞いたり、資料を

見たりして知ったのは、第二次世界大戦でアメリカ合衆国と日本で戦っていたとき、なかなか日本軍が降参しないのでアメリカがロシアに協力を依頼し、そのかわりにロシアに日本の領土にあたる北方四島をあげるというヤルタ協定を秘密で結んでいたからでした。それに対し、日本の了解もなしに法的効果ももたない協定を結んでいた両国はちょっと勝手だなと思います。きちんと日本との条約を結んで北方領土をロシアが占領するのは仕方ないし、納得がいくけれど、そうではないので日本の北方領土をロシアは返すべきだと私は思います。

最後にこの問題を考えていると、ロシアの人たちはこれに対してどう思っているのかなと思います。全然聞いたことがないので、政府の人の意見も聞いてみたいけれど一般の人々の意見も聞いてみたいです。それを聞いて、考え方が変わるかもしれないし、こういう重要な問題は相手の気持ちも知った上で考えなくてはいけないと思うからです。これからも日本はこの北方領土という問題に対し、できるだけ早い返還を目指して取り組まなければいけないし、もっと国民全体がこの問題を自分の国の領土なのだから考えていくべきだと思います。

## 北方領土問題解決のためには

黒部市立鷹施中学校 三年 神保 彩葉

私は、今まで全くと言っていいほど北方領土問題に興味がありませんでした。ニュースや授業でなんとなく耳にしたことがあつたけど、「いつか何とかなるだろう。」などと私には関係ないと思っていました。しかし、自分でインターネットで調べていくうちに、これから解決していかなければならぬ大切な問題だと思ふようになりました。

そう思つた理由は、北方領土が私の住む富山県にすごく関係していることが分かつたからです。北方領土には、富山県黒部市から多くの人々が移住や出稼ぎをしていたそうです。そして、ロシアの勝手な占拠により、多くの富山県の人々が北方領土を出ていくことになつたのだそうです。これを知り、私はとても驚きました。それと同時にロシアの人はひどい、と思いました。北方領土は日本固有の土地であつて、富山県の人々が北方領土をどんどん開拓していったのに島を横取りをしたり、島から追い出したりするようなまねをするなんて、そんなひどいことがあつていいのだから

うかと思ひました。

しかし、困つて居るのは日本人だけではありません。今、北方領土に住んでいるロシア人の人達は、ここを自分達の故郷だと思つて居るそうです。ロシアが不法占拠して六十年以上、ロシア人の若い人達がそう思うことは仕方ないことだと思ひます。もし今、日本がロシア人に「島から出て行け。」と言つたら過去と同じことをくり返すことになり、意味がありません。では、どうしたら解決できるのか。私には、考えてもいい考えは出てきませんでした。でも、私は単純にロシア人と日本人が仲よく北方領土で暮らせることができればいいなと思ひます。そんな簡単にはいかないと思ふけど、これからお互いの国の意見を聞き、どちらも同時に発展し、良くなれば理想的だと思ひました。まずは、日本の若者が北方領土について関心を持ち、よく知ること、またロシア人との交流を深めることが大切だと思ひます。「国の壁」というものがあると思ふけど、広い心をもつて問題解決に力をいれていければいいなと思ひます。

今回、北方領土についていろいろ知ることができ、様々な考えをもつことができました。これから少しずつでも問題解決のため、若い私達が努力すべきだと思ひます。

## 双方の見解を学習して

黒部市立高志野中学校 三年 大田 智生

ぼくは、夏休みからこの北方領土問題について調べ、なぜ北方領土が返還されないのかを考えてきました。一通り日本側の主張などを調べてみましたが、調べれば調べる程、こんなにも証拠となつていゝものが挙がつていゝのになぜ返還されないのかという疑問がますます大きくなる一方でした。そこで、ではなぜロシアは返還しないのか、もしかすると返還を否定する理由があるかも知れないと考えました。調べてみると、やはりロシアも異議をする根拠をもつていました。サンフランシスコ平和条約で千島列島の一部を放棄してしまったことがあるということ、国後密約でロシアに占拠を認めてしまったこと、これらは全てロシアがしたことではなく、日本が自ら行ったことであり、失態だと思ひます。なぜそんなことをしてしまつたのかは、政府が半分どうでもいいと投げ出してしまつていたからではないでしょうか。普通、大切にしている島なら、自ら渡すよいうなことはしないと思ひます。実際、北方領土返還を支持

しているのは、政府でもごく一部だと聞いています。それだけ消極的ということではないでしょうか。今は、国交を保つためにも、あまり反論をしないほうがよいのかもしれないませんが、もつと前から政府が全力で解決に向けて努めていれば、状況は変わつていたのかも知れません。客観的にこの問題を見てみると、なぜ返還してくれないのか、しないのかという見解の理由が分かつたような気がしました。

今までは、日本から見たロシアの姿しか学習しませんでした。あのままで終わつていたら、ロシアは、勝手に領土を奪い、その後の日本の要求をことごとく無視する最低な国として、ぼくの心の中に残り続けていたと思ひます。悪いことをしたのは当然ですが、対立する時には、必ず理由があるということも忘れてはいけなないと感じました。

では、日本はもう返還してもらえないのでしょうか。ぼくは、まだ希望はあると思ひます。ロシアの世論調査で、「北方領土返還に賛成か」という質問に対し、全土で六十％、同じ州に所属する人たちにいたつては八十五％も賛成してくれていゝそうです。ぼくは、日本以外にも認めてくれている人もいゝのを知つて安心しました。しかし、まだ課題は山積みです。返還後に住民や産業を取り戻し、復興することができののかというのも大きな課題です。

そのためには、ぼくたちが北方領土により関心をもち、協力する姿勢をみせていかなければなりません。なぜなら、今の日本人の心の中にある北方領土の歴史や思いが薄れていると思うからです。ぼくたちにとって北方領土問題について考えていくことは、義務なのです。そうすれば、北方領土が返還される日は、そう遠くないのかもしれませんが。

## 国境のない世界へ

黒部市立高志野中学校 三年 大野 櫻子

小学校の時から幾度となく、北方領土のことは本で読んだり、インターネットで調べたりする機会がありました。しかし、調べれば調べる程、日本側にもロシア側にもそれぞれに言い分があり、また立場や解釈の違いもあって、簡単には解釈できる問題ではないのが分かってきました。お互いが譲らずに同じ主張を繰り返すばかりでは、事態は絶対に変化しないのです。私達の祖先が切り開き、生活していた島を無理やり追い出された無念さもよく分かるけれど、現在島にはロシアの人々が暮らしていて、そこにも何十年

もの、新しい歴史が積み上げられてきているからです。果して、私達の先祖が味わった苦しみや悲しみを、ロシアの人々に味わわせても良いものでしょうか。

私は北方領土を日本とロシア共有の領土にすることができれば、と考えます。自治区みたいな場所にして、日本人も、ロシアの人も受け入れ、共に協力し合い開発している友好の島にできたらどんなにいいでしょう。

今、世界は、堅苦しい国境をなくす方向に、歩み始めていると思います。ヨーロッパの国々が、共通の貨幣であるユーロを使うようになったり、国境を越えるのにも、ビザが必要でなくなったり……。日本とロシアの間で、今北方領土問題がわだかまりになっているのはとても残念なことだけれど、そこから一歩踏み出してお互いに受け入れ合うことで、国境のない世界を造るためのさきがけの場所にだってできるのではないのでしょうか。

今、世界はせまくなつたといわれます。例えば情報は、インターネットなどで瞬時に、全世界に広がります。アメリカで起きた金融危機の影響だって、すぐに遠くの国々まで及びます。地球温暖化の問題だって多くの国が心を一つにしなければ決して解決しません。もう、自国の利益だけを考えてはいけなないのだと思います。世界の一つ一

つの国々がお互いに協力し合い、知恵を出し合つて、共に発展する道を考えなければなりません。自国の文化や母国語や愛国心を大切にしながら、相手の国も同じように尊重できたらどんなにいいでしょう。それは、友情をはぐくむ、人間同士の間柄と同じだと思えます。

北方領土問題は国と国との問題です。人と人との関係以上に複雑な部分や簡単にいかない部分もきつと多いでしょう。今、私達にできることは相手の国を正しく理解し、また自分の国も一生懸命働きかけて知ってもらい、足元から信頼関係をかためていくことではないでしょうか。そういう努力は、きつと、次の世代の日本とロシアの関係にいい影響をもたらしてくれると思うのです。国境のない世界に向けて歩きだせたら——。そう願う気持ちでいっぱいです。

## ロシアと日本それぞれの思い

黒部市立高志野中学校 三年 田中 優香

私は北方領土のことを調べるとき、課題を「北方領土に対するロシアと日本の意見の違い」にしました。理由は、

課題を決めるにあたり資料を調べていて、日本の意見は書いてあったけどロシアの意見が書いていないことに疑問を感じたからです。日本はロシアが北方領土を一方的に占拠したと主張していますが、ロシアにも何か理由があったのではないかと思い、調べ始めました。

調べていると、双方の国の主張が食い違っていることが分かりました。例えば日本側の主張として、「日本は日ソ中立条約を守り、ソ連に対して全く攻撃していないのに、ソ連は日ソ中立条約を一方的に破棄し北方領土を含む千島列島・南樺太などへ侵攻しており、重大な条約違反を犯している。」というものがあります。それに対しロシアは、「そもそも日本は当時のソ連が連合国側にたち日本に侵攻する可能性を警戒していたので、日ソ中立条約破棄を一方的なものとは断定するのは難しい。」と反論しています。

おそらくソ連が侵攻した理由は、日露戦争とシベリア出兵の仕返しだと思います。ソ連はポーツマス条約で南樺太を日本にとられています。また条約で交換した千島列島は、昔ソ連のものだったので、日本が戦争中で戦力を分散できない今が、領土を取り返す機会だと思ったのではないかと思えます。

私はやっぱりロシアが北方領土を占拠したのに良い理由

があるとは思えません。そもそもソ連が連合国側として参加できたのは、「戦争終結の時間を早め、犠牲者を少なくするため」だと布告したからです。その布告通りだと、ソ連が北方領土を戦争終了の八月十五日を過ぎ、九月まで占拠したのはおかしいと思います。

先日、元島民の方が学校で講演会を開かれました。その話の中で故郷へ帰りたいという熱い思いを感じました。私は今まで北方領土問題を国同士の問題というふうに見ていて、そこに島民の方の気持ちがあることを分かっていませんでした。講演会を終えロシアの方に北方領土を返してほしいと切に思いました。

ただ戦争が終わりもう六十年たち、北方領土に住むロシアの人々にとっても、北方領土は故郷といえるのではないのでしょうか。北方領土が返還されるなら、ロシアの人々の気持ちも考えなければならぬと思います。

私は正直、今のままでは北方領土返還は叶わないと思います。理由は日本政府が北方領土問題に対し積極的でないからです。私が一番心配なのは北方領土問題が無くなることです。なので例えば漁業権を譲るかわりに領土を取り返すなど、日本が何らかの妥協をし、北方領土返還を実現するのも一つの案ではないかと思えます。島民の方たちが故

郷へ帰れるよう、聞いたことを語りつぐことが大切だと思えました。

## 北方領土学習を通して

黒部市立高志野中学校 三年 久藏 仁美

夏休み前の総合の時間、先生から北方領土問題について学習すると聞いて私は「また？」とつい思ってしまった。私が一年生だったときから、この学校では北方領土問題をたくさん取り上げていて、三年生が行う劇を通して全校が北方領土問題に関心を持っていたので、もう十分理解したと思ったからです。しかし夏休みの間、インターネットや北方領土に関する資料を読んで、北方領土と富山県の密接な関わりについて知り、私にとっても身近な問題だと気付きました。ここから私は、だんだん北方領土に対する興味がわいてきたので、歴史についても調べようと思えました。

まず、北方領土は本当に、百パーセント日本のものなのかということに疑問を持ちました。ロシアと日本の間で領

土に関する条約はたくさん結ばれたので、北方領土がロシアのものとしてされている条約があれば無視できません。調べていて気になったのは樺太千島交換条約です。北方領土は南千島なので千島に入っていますが、この条約では、シムムシユ島からウルップ島のことを挙げていますので、北方領土は千島に入っていないことが分かります。

どの条約を調べても北方領土をロシアのものとしているものはないので、自信をもって日本のものということになります。

ではなぜロシアは北方領土を日本に返さないのでしょうか。

考えられる問題は北方領土を日本に返したとき、今島に住んでいるロシア人をどうするかということです。おい出すのは良くないですが、このまま「返せ、返せ」といっても何もかわりません。どうやったら両国が納得しながら北方領土問題を解決できるのか、とても難しいけど大事なことです。

私が大切だと思うのは、ロシアともっと話し合い、互いの想いを理解することと、日本人一人一人が北方領土について関心を持つことだと思います。そのために私達がしなければならぬのは、今回学んだことをたくさんの人に教

えることだと思います。北方領土問題が、いつか忘れさられることのないように、自分の命尽きるまで、未来の人に伝えていきたいと思っています。

そしていつか北方領土問題が解決したとき、両国ともに、笑顔であることを望みます。

最後に、今まで私達のために講習会など開いて下さった先生方、お話しして下さい下さった旧島民の方々にはとても感謝しています。みなさんの意思を受け継いで、北方領土返還運動にすこしでも貢献できればと思います。

## 北方領土について

魚津市立西部中学校 二年 上嶋 拓

僕は北方領土という言葉は耳にしたことはありませんが、内容については全く知りませんでした。どんなふう調べていったら良いのか困っていたら、父が「おばあちゃんには北海道の根室生まれだから話を聞いてみたら。」と言ってくれたので話を聞くことにしました。

僕の祖父は、北方領土周辺でいつも漁に出ていたそうで

す。富山に来ていた祖母は、三十年前までは根室へ出稼ぎに行っており、花咲漁港で魚関係の仕事をしていました。北方領土が近いだけに漁業が盛んであり、資源の豊富さを感じたそうです。

そんな北方領土は今、問題をかかえています。太平洋戦争後、ロシアが実効支配している北方領土を、日本が返還を求めている問題のことです。つまり、ロシアが勝手に自分たちの土地だと主張しているということ。なぜそのようなことになったのかというと、昔、第二次世界大戦で日本は負けてしまいました。その時、混乱の中でロシアが日本の領土であった北方領土を奪い取ったそうです。それに対して日本は今、返還活動を続けているということ。それ

僕は、自分たちにできることをいくつか考えてみました。まず、北方領土が日本固有の領土であることを伝えていくことです。他には、ロシアの人と友好を深め、お互いの問題として認識し合うことです。今はまだできないかもしれませんが、将来もしロシアに行くことになったら、ぜひ友好を深めたいと思います。また、返還活動は元島民の方々が多く行っています。元島民の方々だけでなく、日本人全員で返還活動を展開すればいいと思います。

この問題の解決に向けて、正しい歴史を勉強して、正し

い認識の元に、ロシアへ対して正しく粘り強く交渉していくことが必要だと思えます。また、ロシアと日本、お互いの国だけでなく、全世界へ向けても、この問題を平和に解決するための両国の宣言が必要なのではないかと思えます。ですが、戦争は絶対にいけません。それに今、北方領土はロシアの人々にとっても固有の領土になっています。力づくで返還してもらおうのではなく、友好的に、日本とロシアの友好の架け橋になる象徴にするべきだと思います。返還後も、ロシアの人に住んでもらって、新しい価値観を持った日本の北方領土にしていくことが、この問題の解決のポイントなのではないかと思えます。

同様な問題が世界の国にもあるならば、一緒になって考える姿勢が大切だと思います。地球という同じ星に住む人間として、共に考えることが大切であり、この行動は自分たちにもきつと返ってくるはずだと、僕は思います。